

ハ	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	3	4	体制上、その日のうちの打ち合わせが困難なため、翌日の始業時のミーティングや月2回の会議・研修で共有する工夫をしている。また毎日の終業時に可能な職員で情報共有をはかっている。	職員の退勤時間が異なるため、全員が集まったの共有の場は困難である。翌日のミーティングを必ず実施し、支援サポート内容を中心に情報共有の精度を高める。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	1		個別の個人記録はとっている。全体の記録はよくわからない。	個人記録とは別に、全体のサービス提供記録を記載している。児発管による日時の記録もされており、今後も継続し、慣用な共有をはかる。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	12				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	8	4		ガイドラインの内容を十分に理解できていない。	前年度より、年間の職員研修の内容に「ガイドライン学習」を入れ、全員が理解できるよう、取り組みを開始した。新入職者研修でも実施。
関係	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	1	1		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	10	1		23年度に徐々に小学校1年生の受け入れをすること、その通園先訪問予定が報告された。	入学前に幼稚園・保育園の訪問を実施、その内容について職員会議で共有を図っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	5	1		現在対象者はいないが、今後新しい利用者で発生した場合は、主治医等との連絡体制を確認する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	10	1			